

学年	高校1年	教科	地理歴史	科目	日本史 A	単位数	2
教科書名	詳説 日本史 B (山川出版)			副教材名	新詳日本史 (浜島書店)		
コース クラス	全コース 全クラス			担当者名	大川 孝司/小日向 智/金井 靖治 上山 拓/米村 健		

## I. 目標

1. 近現代の歴史と現代の多様化・複雑化した諸課題との関連性を多角的な視点で学び、価値観の異なる時代や地域に対して想像的理解力を高めることで歴史的思考力を養う。
2. 世界の中の日本という観点で歴史の因果関係を把握し、国際社会に生きる日本人としての自覚と教養を身につけさせる。
3. 模擬試験や入試問題に対応できる基礎力から応用力までを身につけさせる。
4. 大学入学共通テストや中堅以上難関私大の入試問題にも対応できる解答力を培う。

## II. 授業のねらい

1. 探究学習 (萩・広島研修、修学旅行、IP) と連携を図りながら、発想力・探究力・表現力の向上を図る。
2. 歴史の複合性や関連性を理解させ、歴史に対する理解を深めるとともに生徒の学力向上を図る。また、過去に学び、現在を見つめ、未来を切り拓く力を養うことで、生徒の進路選択に寄与する。
3. 政治、経済、国際関係、社会制度、生活などの各分野の単元を学習し、様々な視点から事象を捉える力を養う。

## III. 授業の進め方

1. オリエンテーション合宿で山口県萩市を訪れることも踏まえ、近現代 (幕末) から学習を開始する。
2. 1年間で太平洋戦争終結までを進捗目標とするため、文化の単元は割愛し政治史・経済史を中心に授業を進める。
3. 学期毎に小テストを実施し、理解度を確認するとともに知識の定着を図る。

## IV. 学習上の留意点

1. 授業の前日までに教科書を読み、単元の概要を把握したうえで授業に臨むこと。
2. 用語・人名の暗記のみではなく、様々な事象の因果関係を意識しながら、自分の言葉や図表に置き換えて理解すること。
3. 板書の書き写しだけでなく、授業内の解説から要点を聞き分けてメモすることで理解を深める努力をすること。

## V. 定期試験

- 1学期 中間試験 : 実施しない
- 1学期 期末試験 : 開国と幕末の動乱 ～ 立憲国家の成立と日清戦争
- 2学期 中間試験 : 日露戦争と国際関係 ～ 近代産業の発展
- 2学期 期末試験 : 第一次世界大戦 ～ ワシントン体制
- 3学期 学年末試験 : 恐慌の時代 ～ 第二次世界大戦

## VI. 評価の方法

各学期の定期試験、小テスト、提出物 (課題) などの総合評価。

## VII. 授業計画

学期	月	単元	試験等	学習目標
一学期	4	第9章 近代国家の成立 1 開国と幕末の動乱	小テスト	幕末の動乱における、天皇を中心とする統一国家構想の芽生えから、幕府の滅亡、旧勢力の一扫に至るまでの経過を理解する。
	5	2 明治維新と富国強兵	小テスト	欧米の文化・思想の導入と、一連の近代化政策に対する反動としての土族反乱・農民一揆の失敗、言論による要求実現への転換を理解する。
	6	3 立憲国家の成立と日清戦争	期末試験	東アジアをめぐる国際情勢が変容するなか、国家的課題であった不平等条約の改正交渉が進展した過程、朝鮮問題から日清戦争に至る経過について考察する。
	7			
二学期	9	4 日露戦争と国際関係	小テスト	開戦に至る国際情勢や、日露戦争の経過、戦後の日本の国際的地位の変化と植民地支配の推進を、諸外国の動向と関連付けて考察する。
	10	5 近代産業の発展	中間試験	日清・日露戦争前後にかけて資本主義国家の基礎が確立された過程を、産業革命や近代産業の発展に着目して考察する。
	11	第10章 二つの世界大戦とアジア 1 第一次世界大戦と日本	小テスト	第一次大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出への状況を踏まえて考察する。
	12	2 ワシントン体制	期末試験	ワシントン体制にいたる国際的協調体制の進展など、国際情勢の変移を日本の立場に着目して考察する。
三学期	1	4 恐慌の時代	小テスト	戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、恐慌（不景気）がどのような影響をもたらしたのかを考察する。また、国内外の政治・経済状況の変化とその対策に着目して理解する。
	2	5 軍部の台頭	期末試験	日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について考察する。
	3	6 第二次世界大戦		日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程については、国民生活の変化や諸統制に着目して、全体主義的な国家体制の進展を考察する。同時に、第二次世界大戦については、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して理解を深めることで、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。

※ シラバスの内容については、進捗状況、理解度、その他の都合により変更する場合がある。